

ツシマヤマネコは世界に誇る日本の宝
保護へ向けて市民と専門家が活発に議論



環境学習の成果を発表する大船越小学校4年生

3月10日、対馬市交流センターで、市民シンポジウム「ツシマヤマネコを語る夕べ」が開かれました。
専門家を交えツシマヤマネコについて気軽に話し合うことで、保護に対する理解を深めてもらおうと、環境省、長崎県、対馬市の主催で行われ約200名の市民が参加しました。

参加者は、「ヤマネコを守る」「ヤマネコと暮らす」「ヤマネコを増やす」「ヤマネコと未来を過す」の4グループに分かれ、それぞれのテーマに沿って意見交換を行いました。
「ヤマネコと未来を過す」のグループでは、大船越小学校4年生と雞知中学校1年生が環境学習でツシマヤマネコの生態や減少の要因などについて学んだ内容を寸劇や映写機を使ってわかりやすく発表し、車の運転に気をつけるこ



市内の8施設が認定されました。
(社)長崎県観光連盟「長崎県おもてなし推奨の宿」



修了証を受け取る施設代表者

県内の宿泊施設を対象に、おもてなしのレベルを向上させ魅力ある宿泊施設を創出しようと長崎県が実施した平成18年度「長崎おもてなしの宿創出事業」で、1年間にわたって専門家の研修を受け合格した市内の8施設(上対馬荘、対馬グランドホテル、万松閣、ホテル金石館、ホテル空港イン、ホテル対馬、丸屋ホテル、柳屋ホテル)に対し、修了証と推奨楯が手渡されました。

合格した施設は、(社)長崎県観光連盟の「長崎おもてなし推奨の宿」として、ホームページやパンフレット等により積極的にPRされます。

同事業では、16年度に佐世保・平戸松浦・壱岐地域で23施設、17年度には島原・小浜・雲仙・五島地域で40施設が推奨されています。18年度は対馬地域のほか、長崎・諫早・大村地域で実施されました。

などを大人へ呼び掛けました。
その後全体会で、各グループが話し合いの結果を持ち寄り発表しました。全体会の司会を務めた(財)日本動物愛護協会の中川志郎理事長は「市民、ボランティア、企業行政が協力して2月にスタートした「舟志の森づくり」活動は、連携の大きなシンボルとなるもので、この活動を成功させることがヤマネコと人間との共生につながるようになるのではないのでしょうか」と会議を締めくくりました。

売買総額 約2千9百万円
対馬家畜市に78頭出場



3月6日、美津島町雞知の対馬家畜市場で今年初めてとなる家畜市が開催されました。家畜市には、島内の生産者が育てた肉用牛78頭(子牛73頭、成牛5頭)が競りに出され、島外の業者、島内の生産者らによって次々に競り落とされました。価格は高値で推移し、売買総額は28,823,550円でした。なお、1頭の最高額は、褐毛和種の子牛(去勢)の516,600円でした。

行事を伝える「頭仲間」が1戸へ減少
存続の危機の中行われた赤米神事(豆酸)



深夜行われる「頭受け」

「頭受け」は、この行事の中でも中心となるもので、旧暦1月10日の夜から翌朝にかけて行われる受頭役交代の行事です。頭役家の奥座敷の天井に吊された赤米の入ったご神体の俵が下ろされ、担ぎ手に背負われて次の受頭役家に運ばれます。

以前は、数多くいた頭仲間も、過疎化や行事への負担などを理由に減少し、今年主藤公敏さん(56歳)の1戸だけとなったため、今年の神事では、主藤家を出たご神体は近所を練り歩いたあと、再び主藤家へ戻り、同座敷の天井に吊されました。



天井から下ろされ背負われるご神体の米俵。重さは約60kg

子どもの健やかな成長と地区発展を願って
大山の弓射り神事



3月14日、美津島町大山地区に伝わる伝統行事「弓射り神事」が行われました。

この神事は毎年旧暦の1月25日に、地区の小学校就学前の男子(長男)が弓を射って、子どもたちの健やかな成長と地区の安全・発展を願うものです。

今年、弓射りの役目を務めたのは島雄太陽くん(4つ)と小田優海くん(6つ)の2人。優海くんは次男ですが、地区の子どもの減少により出場となりました。

近所の人達が見守る中、晴着に身を包んだ2人は、父親の助けを借りて弓を引き、和紙で作られた直径約1.5メートル的的にめがけて9本の矢を放ちました。

矢が的に当たるたびに周囲から歓声が上がりました。

百寿(99歳)のお祝い



小宮ハルエさん(厳原町宮谷)

3月1日、厳原町宮谷の小宮ハルエさんが99歳を迎え、市長から敬老祝い金を添えて褒状が贈られました。

今も自宅にお住まいの小宮さんは、元気の秘訣を尋ねられると「何でも好き嫌いなく食べる事」と笑顔で答えていました。特にウナギやすき焼きが大好きだそうです。それと畑仕事など外で汗をかく事だそうです。

久田小学校内山分校が閉校 119年の歴史に幕

3月18日、最後の卒業式と閉校式を挙行



卒業証書を受け取る分校最後の卒業生内山美優さん



閉校式で最後の校歌斉唱



分校最後の児童(左から)内山美優さん6年、内山紗緒里さん1年、木和田湧己くん1年、木和田彬仁くん4年

平成18年度での閉校が決まった敵原町の久田小学校内山分校で3月18日、最後の卒業式と閉校式が行われました。内山分校は、明治20年「簡易内山小学校」として創立されて以来、119年の歴史を歩んで来ました。昭和27年には現在の校舎の落成と同時に中学校も併設され、最盛期には児童・生徒70数名が在籍していました。平成5年に中学校が閉校。今年度は4名の小学生(6年1人、4年1人、1年2人)を数えるまでとなりました。同校では、正式な卒業生名簿が残っている昭和

22年度以降だけでも、296名の卒業生が旅立っています。閉校式に先立ち行われた卒業式では、最後の卒業生となった内山美優さんに、中村幹男校長から卒業証書が手渡されました。将来はキーキ屋さんになりたいという美優さんは「矢立山と大鳥毛山の頂上に登ったことが印象に残っています。久田中学校では勉強や部活を頑張りたいです」と話していました。続いて開かれた閉校式には、地域住民ら約100名が出席しました。松村市長による式辞に続き、内山地区の阿比留

睦男区長が「長い歴史に幕を下ろすことになり、やはり寂しい思いがします。数年が経った時、学校を統合して良かったと思える日が一日も早く来ることを願います。」と挨拶。そして最後の児童4名が「内山分校でたくさんのお思い出を作りました。学校で学んだことを大切に、久田小学校、中学校に行っても頑張ります。」と宣言し、最後に出席者全員で校歌を唄い、長い歴史を刻んだ思い出深い分校との最後の別れを行いました。

14年間にわたる国際交流が評価されました



雑知中学校のみなさん 左から小島徳重校長、依勝之くん(中2)、松村市長、瀧川真依さん(中3)、国際交流担当の池ノ下祐子先生



表彰式で発表を行う武宮七穂さん

国際交流を通して相互理解と友好親善の促進に貢献している学校・団体を表彰する西日本国際財団の第2回アジアkids大賞に、美津島町の雑知中学校が選ばれました。雑知中学校は、平成5年に韓国釜山市の影島区にある新仙中学校と姉妹校関係を締結以来、途絶えることなく14年間にわたって相互ホームステイなどの交流を続けています。また、生徒会の専門部組織として国際理解部を設置し、諸

外国への理解が深まるような活動を日常的に行っており、このような活動が評価され今回の受賞となりました。表彰式は、3月8日福岡市で行われ生徒代表の2名(依勝之くんと武宮七穂さん)が活動体験を発表しました。国際理解部の前年度部長の瀧川真依さん(3年)は「最初は壁があると感じていた韓国に対して親しみを持つようになり、交流を通しての感想を話してくれました。」

雑知中学校が西日本国際財団 アジアkids大賞を受賞

対馬南交通少年団
豊玉分団の入・退団式



3月12日、対馬南交通少年団豊玉分団の入・退団式が豊玉小学校体育館で行われました。

同分団は、豊玉小学校に通学する5、6年生で構成されています。交通少年団として活動しているのは県内でもわずか4地区だけで、入団者には団員証と制服が貸与されます。

式では、入退団者全員に対馬南地区交通安全協会の和田局長と母の会の平山会長より、記念品と手作りの交通安全飾りが贈られました。

新分団長に任命された中谷空くんは、「交通の決まりを守

り、他の模範となるよう努めます」と力強く誓いの言葉を述べました。

活発に意見交換
舟志区集落座談会



3月3日、上対馬町舟志地区で「集落座談会」が開催され、区民約30人が参加。「里地里山」「食と農」「舟志の魅力」の3グループに分かれて意見交換を行いました。

同地区は、島内でも有数なツシマヤマネコの生息地であり、会では自然との共生、舟志区独自の食文化、これまでの歴史について活発な意見が交わされました。2月には、舟志の森づくり推進委員会」を発足させるなど、地区住民の郷土に対する力強い意識の高さが伺えました。

交流センターで
「真打ち競演」収録



昭和のいる・こいる

対馬市交流センターで2月24日に、NHKのラジオ番組「真打ち競演」の収録が行われました。

出演したのは、コントのチャリーカンパニー、漫談のケーシー高峰、ぴろき、漫才の昭和のいる・こいる、落語の橋屋圓太郎、柳家さん喬の6組で、出演者の軽快な話術に、会場は終始笑い声に包まれていました。

鳥インフルエンザ予防で
消毒薬散布



2月下旬、市内の養鶏場全域で消毒薬の散布が行われま

した。国内における高病原性鳥インフルエンザの発生を踏まえ、長崎県の命令により予防措置が実施されたもので、養鶏場周辺に消石灰を散布しました。

小学校の思い出を
タイムカプセルに

鶏鳴小6年生



3月18日、卒業を控えた鶏鳴小学校6年生児童が保護者と協力して、校門の入口にタイムカプセルを埋めました。

母校をいつまでも忘れることなく、また同級生が集まる機会になることを願い、カプセルには二十歳になった自分への手紙、親からの手紙、時間割表にクラス便りなどの思い出の品々が詰められました。開封されるのは、成人式の前日、午後1時の予定です。

ミサイル艇
「しらたか」一般公開



2月25日、上対馬町比田勝港で海上自衛隊のミサイル艇「しらたか」が一般公開されました。

上対馬でのミサイル艇一般公開は、日本海海戦百周年記念事業以来、1年9ヶ月ぶりです。

「しらたか」は長崎県佐世保地方隊所属で総トン数2百トン、平成16年に就役し日本全国で9隻あるミサイル艇の内1隻です。「海上のもしも」に備えた沿岸防備、哨戒を任務としています。

重厚な船体の迫力に訪れた観客は驚嘆した様子でした。